



たたら景観をどう活用するのか

藤原和範 議員

町長 町づくりに活かし 世界遺産登録を目指す



問 「たたら製鉄」を背景とする「たたら景観」の国・重要文化的景観認定への申し出の進捗状況と展望は。

答 世界で唯一「たたら」の炎」が上がり続ける本町にあって「たたら」は何にも代えがたい財産であると認識している。今日における「たたら」の評価とその活用のため平成23年度から国の重要文化的景観地区の申し出の準備を行い、本年7月に文化庁に申請、11月に諮問・答申される予定である。

問 たたら関連施設と一体となった滞在型観光ルートへの検討などが考えられるが、「たたら景観」を

地域資源として、どう活用していくのか。

答 中国地方初の国・重要文化的景観となるので「たたら製鉄の町・奥出雲町」を更に全国へ情報発信していく。そして、たたらの景観資源、文化遺産を世界遺産登録に向けた準備の一つとして、県に働きかけていきたい。

問 横田高校の生徒確保への支援について、少子化が進む中において、入学数が更に減少した場合は、統廃合の対象となることも予測される。大変に危惧しているが、町内中学校の入学者の現状と将来見通しは。

答 安部教育長 最近3年間の入学者数は、仁多中が46・58・59%と低率ながら微増、横田中が95・79・79%と一見減となった後は現状維持の状況が続いている。今後の町内中学校の卒業見込み者数は、平成29年度以降は100名を切ることで予測される。

問 少子化の中、厳しい状況ではあるが、まずは、町内卒業生の入学者増につながる対応策の検討と実施を強く望む。高校魅力化・活性化事業の活動成果は。

答 安部教育長 県教委が3年間支援する事業だが、横田高校は今年が最終年度である。教職員、生徒が一体となった取組みや地域と協力した活動が増え、学校魅力・活性化の気運が醸成されてきたことなどが成果と言える。しかし、生徒数確保という点からみれば、十分に成果が表われているとは言えない。

問 横高の維持発展は、若者定住等にも影響をきたす重要な問題であり、これまでも増した支援体制が必



たたら景観 大原新田 (日本棚田百選)

問 要と思う。町として、横田高校支援への取り組みの考えは。

答 何よりも、町内の中学生が横高に行きたくなるような対策を具体的に考えるべきと思う。例えば、横田高校汽車通学者には通学補助金の支給、ホッケー留学生等の宿舍の整備も検討課題である。

横田高校の存続は、極めて重大な課題であるので、関係各方面と相談しながら横高の生徒数を守っていく取り組みを進めていきたい。